

## 台湾 3月

### 宇川義一

今年は台湾に3回呼ばれていて、4回講演する予定がある。その第一回目が3月にあった。残念ながら観光ではなく、台湾国際MDS(Movement Disorder Society)コンGRESSとして、2年に1度同国で開催される国際学会での招待講演である。

右のパネルにあるように、20カ国以上からの参加があり、シンポジウムの講演者は半分以上が海外からの招待者という国際色豊かな会議である。今回は3回目で、第一回は2011年の3月に開催され、その時私は招待されていたが、東日本大震災の直後で代理の参加を頼んだ覚えがある。2週前のバルセロナでの出来事とは別の理由で代理を御願した。その時の御願したのは花島先生で、今度国立大学の神経内科教授となり、栄転される。



今回もエピソードがあったので、報告する。

### ホテルと空港の transportation

今回、台湾の空港に夜中に到着したが、迎えの車が来ていない状況であった。こちらの飛行機が30分早く到着したので、ドライバーが来ていなかった。そこで、しばらく待つべきかタクシーで行ってしまうかの決断が必要であった。せっかちの私の性格では、待つと言う選択肢はなかった。それでもホテルの人が空港にいたので、ホテルへの問い合わせなど30分くらいは時間を使った。この時、夜遅く台湾の友人の神経内科医にどうすればよいかと電話をしてしまった。電話に返事はなかった。結局、長い列でタクシーを待って、タクシーでホテルに到着した。タクシーでは、現金しか使えず、持っている現金の95%を使って、なんとか切り抜けた。ホテルに到着ゆっくりしていると、友人から電話が入り、結局大丈夫かという話であった。夜遅く電話をしたことを少し反省。翌日、学会のPCO(Professional Congress Organizer)に尋ねると、自分たちは迎えに行ったという空港での写真を見せられた。しかし、おそらくぎりぎりの時間であったのだろう。はやく到着しすぎたのかと思う。帰りもホテルのロビーに朝7時に待ち合わせと言うことで、チェックアウトを早めに済ませて、7時5分前にロビーに行くと、今回もドライバーがいない。少し待つと、ドライバーらしき人が来たが、迎えの名前はラング先生であった。ここでもまた、前回の友人に朝早く

電話してしまった。彼から確かめると言う返事があり、電話を切った。すると、2分後くらいにドライバーが現れた。しかし、7時5分過ぎくらいである。こちらでは、ドライバーが少し前に来るとは限らず、約束にほぼ間に合えばOKということだろう。それにつけても、僕のせっかちは直らず、反省は有効でなくまた電話した。本当に迷惑な話である。彼からは、結局会えたなら良かったと優しい返事もらった。インズー、ごめん、そしてありがとう。

## 台湾とカラオケ

カラオケ文化は日本が発祥の地であるが、この文化の台湾での発展ぶりには目を見張るものがあった。学会の夕食会の時に、一次会にもかかわらず、カラオケが始まり、カナダのラング先生まで歌い始めた。そこで日本もと言う事になり、右の写真の様に、服部先生、高橋先生、私で、台湾でもよく知られているテレサテンの“時の流れに身を任せ”を歌った。高橋先生は歌うのが好きなようである。一次会からカラオケかと驚いていると、そんなものではなかった。何回も電話をしてしまったインズーという台湾の医師が、ラング先生、エドワーズ先生、レイルマン先生とカラオケに行くから付き合いと言われた。他の二人の日本の先生はすぐ



に帰ったのですが、私は2次会に付き合った。そこは、8階くらいのビルすべてがカラオケルームであり、日本より進んでいる感じがした。ただ、最近の日本を私が知らないだけかもしれない。ここからがたちが悪かった。韓国から参加された先生の一人は、翌日朝4時にはホテルを出て早朝の便に乗るというのに午前零時をまわっても一向に終わる気配がない。そこで、韓国の先生がラング先生がお疲れのご様子だから、そろそろ帰ろうと提案したら、そのラング先生がまだ歌いたいと言い出す始末。そこで、私が気を利かせてインズーにお願いして、12時半前にやっと店を出ることができ、随分と感謝された。私のような下戸も時には人の役に立つようだ。それにしても台湾におけるカラオケ文化のすごさに驚かされた。何か日本発の医学文化がカラオケくらい発展することを願うばかりである。

## 日本が帰国を拒絶

今回は、日本が私の帰国を拒絶した。ショックな出来事である。成田に到着して、さっそうと最初の一人として、飛行機を降りて、早く家に帰ろうとしていたその時である、飛行機を降り接続するタラップからビルに入ろうとしたそのときである、鍵がかかっている入れない。なんと、ANAの職員が鍵を開け忘れて行ってしまったのである。私の後から次々人が来るが、進めない。そのうち人だけになった。大きな声で職員を呼んで、何とか進めた。いくら何でも、帰国を拒否するなよと言いたい。

ついでに、似たように大きな声で対応することがあった。新幹線で、混んでいてグランクラスに乗っていたのだが、お客さんの一人が間違えて緊急ブザーを押してしまい、列車がストップした。車掌さんがインターホーンで問い合わせているのに、押した本人は車両の間に行ってしまう、答えない。車掌さんが困っていたし、このままでは列車が止まったままだと判断して、僕がインターホーンに間違えて押したようですと答えた。なぜ、本人が答えないと言う感じである。ここでも、待てない性格が出てしまった。

あらためて、せっかちを自覚した旅であった。